

## 令和元年度まちかどミーティング会議録

開催日 令和元年9月27日（金）

地区 植苗地区

会場 植苗ファミリーセンター

<意見交換>

○司会 それでは、意見交換の時間に移ります。

この意見交換の時間は、あらかじめお配りをしております町内会からの要望に関する意見交換や、本日、御参加の皆様との市政に関する意見交換を中心に、最大8時をめぐりに進めてまいりたいと思います。

意見交換を進めていく中で、町内全体に関わらない個人的な要望ですとか、苦情等につきましては、本日、市の担当者が多数来ておりますので、まちかどミーティング終了後に直接担当者のほうにおつなぎをいたしますので、御了承ください。

また、発言の際には、挙手の上、マイクをお持ちいたします。お住まいの町名とお名前を述べてから、お一人一件ずつ、簡潔に発言をお願いしたいと思います。

それでは、市政に期待すること、日頃お気付きの点や御意見のある方は、挙手をお願いいたします。どなたかいらっしゃいますでしょうか。

町内会からの要望に関することでも構いません。はい、一番後ろから2列目の男性の方。

◆市民 植苗南町内会の■■■■と申します。トップバッターで申しわけないのですが、ウトナイのことにつきまして、ラムサール条約に絡みましてね、ウトナイ湖、それと、昨年、まちかどミーティングで提起しましたカヌーの問題も併せまして、まあ、一つにしてちょっと質問、お伺いをさせていただきます。

苫小牧市のウトナイ湖は、自然保護、鳥獣保護の下に日本でも有名な場所です。北海道の中でもね、かなり有名な湖です。苫小牧市としては、このウトナイ湖の周辺の鳥獣保護、また、自然保護に対して、ふだんどのような取組と政策を行っているのか、それをお聞きしたいのと、併せて昨年提起しましたカヌー。千歳の一業者が、まだ、いまだにウトナイ湖のほうまで乗り入れている。この件に関して、法的にいろいろ問題があるという回答はいただいていますけれども、本当に、実態はですね、そのことを黙認していると、その鳥獣保護、自然保護というものを本当に守られているのかどうか。で、そういうことを見過ごしていると、ほかにまねして出てくる業者でも、個人でも、法的に何も縛りが無いから観光目的、遊び目的で勝手にカヌーでウトナイ湖へどんどん入っていったいいのかと。そういうふうな問題が生じてくると思うのですが、この辺に対して市は今ね、去年の問題提起からきょうまでの間に、どのような対応と、今現在どのような取組をしているかということをお尋ねしたいと思います。よろしくをお願いします。

○司会 はい。2点いただきました。ウトナイ湖の環境の対策と、もう一つはカヌーの関連のお話しになります。では、回答のほうをお願いいたします。

◎環境生活課長 お疲れさまでございます。苫小牧市環境生活課、片石と申します。私のほうからは、ウトナイ湖の自然環境の保護という関係についてお話をさせていただきます。

まず、ウトナイ湖につきましては、皆様、御存じのとおり、国設の鳥獣保護区ということになっておりまして、その後、平成3年12月にラムサール条約の登録湿地という形になってございます。保護の関係につきましては、ウトナイ湖につきましては、さまざまな自然環境、それから鳥獣類の生息環境としての重要性を多くの皆様に知っていただくために、ウトナイ湖に野生鳥獣保護センターなども設けまして、さまざまな探鳥会と、ほかのイベントなどを行いながら、多くの方にウトナイ湖のすばらしさというものを御説明しているところでございます。

そうですね、それで、では、ウトナイ湖の国設鳥獣保護区内ですけれども、地区内において例えばカヌーとかが入られているとか、それから鳥獣に危害を与えるような行為というのは今のところは発生していないというところではございます。一応、自然保護に関しましてはこのような形でお答えさせていただきます。

◎道路河川課長 皆さん、おばんでございます。都市建設部道路河川課の伊藤と申します。どうぞ、よろしく願いいたします。

2点目のカヌーの利用につきまして、市はこれまでどのような対応と取組を行ってきたのかという御質問をいただきました。ありがとうございます。カヌー利用につきましては、これまで地域の方々から野火の心配、そして、環境への影響などから、植苗橋から下流に下ること。これに対する利用制限の御要望をいただいております。先ほど御質問にもございましたけれども、現在私どもで把握しているカヌー事業者は3社ございます。そのうち2社につきましては、植苗橋から上流側で営業を行っております。ただ、今、先ほど御質問にございましたとおり、1社につきましては植苗橋から下流側への利用を行っているという状況でございます。私どもは、これまでこの事業者に対し、地域の方々への思いをお伝えしながら、植苗橋から下流側へは下らないでほしいという旨を何度もお伝えさせていただいております。で、これからも、これで終わりと、そういうわけではなくて、地域の方々とかヌー事業者との、これの調整役、これを私どもが担いまして、最近では地域の方々から、環境への配慮から下流側に下ってほしくないという御要望もございますので、私どものほうでは、横断幕を植苗橋という橋に掲げて対策を講じているところでございます。で、今後につきましても、地域の方々のやっぱりその意向というものをしっかりと踏まえまして、カヌー事業者との協議、調整というものを今後も継続して進めてまいりたいというふうに考えておりますので、御理解のほどをよろしく願いいたします。

以上でございます。

○司会 はい。よろしいですか、はい。

それでは、そのほかにもございますか。はい、2列目の男性の方。今、マイクをお持ちいたします。

◆市民 植苗町内会連合会の■■■■と申します。

事前要望に提出いたしましたけれども、ちょっと期間が短いために、今回、文書では回答できないという、間に合わないということでしたので、口頭で提案して、口頭で回答をもらうことに

なっています。

来月から実施される保育料の無償化です。これは植苗保育園に大きな影響を与え、財源不足が見込まれることから、市に補助金の増額を要望するものです。

まず、件名ですけれども、植苗保育園の運営補助費の増額についてという名目です。説明いたします。植苗保育園は、市の補助金をいただきながら、町内の子育て家族の負担軽減と幼児教育の一端を担い、植苗町内会連合会が運営を行っております。この度、国の施策により、本年10月から幼児教育・保育の無償化が実施されることとなり、このままでは植苗保育園の運営が困難になることが確実視されます。現在、植苗保育園には14名の園児がおりますが、来春に6名が卒園し、2名が転居の予定となっております。このような中で、入園児の確保に努めておりますが、無償化の条件の就労、仕事に就くことですね。就労においても保育時間が短い植苗保育園への入園は敬遠されております。その中でも、保護者からは近くにあって便利。町内の父母が親しくなれて心強いとの声や、町民からは元気な子供を見ているのは楽しい。子供の元気な声で町内も活気が出るなど、保育園に対する多くの期待が寄せられております。植苗町内会連合会としても、子ども・子育てを地域で支え合い、子供たちがこの地で輝く、そんな魅力のある町内会を目指し、植苗保育園の存続に向けて努力をしていこうと考えております。つきましては、園児数の減少により、植苗保育園は資金不足が生じることとなりますので、最低10名以上の入園児の確保に努めるとともに、保育料の値上げ、無償化対象外の園児に対する保育料の一部助成等の対策を講じ、園の存続に努めたいと考えておりますので、市の補助金の増額についても御検討いただきたく要望する次第です。

以上でございます。

**○司会** はい、ありがとうございます。植苗保育園の運営費補助金の増額についてということで、回答のほうをお願いいたします。

**◎こども育成課長** 健康こども部こども育成課の畑島と申します。先日は保育園の検討委員会のほうで説明のお時間をいただきまして、誠にありがとうございました。ただ今いただきました植苗保育園の運営費補助金の御要望でございますが、植苗保育園につきましては、植苗町内会連合会の御尽力により運営いただいている認可外の保育施設でございますが、お子さんの通所が困難な地区に設置されている認可外の保育施設の運営費として、この地区における保育が必要とされるお子さんの福祉向上を図ることを目的として、現在、運営費の一部を補助する支援を行っているところでございます。

今年の10月から、先ほど御要望にもございましたとおり、国の幼児教育・保育の無償化が開始するなど、保育環境を取り巻く制度が急展開している中でも、保育施設には国や北海道が定める制度、基準の下での運営が求められることもあって、対応が難しい内容もございますけれども、できるだけ前向きに御協力したいと考えておりますので。先日も植苗保育園の検討委員会のほうに出席をさせていただいておりますけれども、引き続き町内会のほうとお話をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○司会 はい、よろしいでしょうか。

◆市民 どうもありがとうございます。よろしくお願いいたします。

○司会 はい、ありがとうございます。

それでは、そのほかにいらっしゃいますか。はい、一番後ろの男性の方。

◆市民 遠浅町内会の■■■■と申します。連合町内会では、文教部の担当をさせていただいています。

それで、お尋ねなのですが、先ほどの保育所運営とともに、若いこれからの子供たちを育成できる町内会づくりということで考えますと、植苗小中学校のところにこう、学童保育ということを開設をお願いしたいなというふうに考えております。それで、かつ、学童保育の運営方法、若しくは、その開設に必要な条件ということがもし分かればですね、その辺の御説明、よろしくお願いいたします。

○司会 はい、ありがとうございます。学童保育の開設の要件ということでお伺いいたしました。それでは回答のほうをお願いいたします。

◎青少年課長 健康こども青少年課担当、高坂と申します。よろしくお願いいたします。

同じく、学童保育につきましても、今、御要望ございました。まず、開設条件ということですが、まず、国の補助となっている事業でございますので、仮に国の補助を受けるとなった場合は、基本的には10人以上のお子さんがあることと、あとは、開設日数といたしまして、基本的には220以上又は250日以上というように、開設日数が共に条件となっております。ですので、もし仮に、国の補助となった場合は、そのような条件をクリアする必要があるがございます。また、例年、植苗小学校さんにつきまして、保護者を対象に利用希望調査ということをして、例年、秋のこの時期に行っているのですけれども、それに基づいた例年、1人とか3人の間ぐらいの利用希望でございましたので、なかなか開設しようという動きにはつながっておりませんでした。ただ、利用を希望しているお子さんにつきましては、特に夏休み、冬休み等の長期につきましては、ほかの学区の利用をしていただいたりということで、ちょっと御不便な点があったかと思っておりますけれども、開設に至っておりませんでした。ことしですね、今は利用希望調査を今後行う予定もありますので、その様子、結果を見ながらですね、今後のことを、また、町内会のかたの相談の、協議もしながら、今後のことは考えていきたいと思っております。利用アンケートを実施することで、どのような、今後、国の補助に基づいてやるものなのかどうなるかということを含めてですね、どのようなことが可能かを含めて、皆さんのお声も聞きながら御相談させていただきたいと思っておりますので、きょうのところはこれでよろしくお願いいたします。

○司会 はい、よろしいでしょうか。

◆市民 ありがとうございます。

○司会 はい。それでは、そのほかにございますか。

町内会ですとか、地域の要望、あるいはまた、市政に関することになりますが、いらっしゃいますでしょうか。

よろしいでしょうか。もし、ないようでしたらこちらで終了となりますが、大丈夫でしょうか。分かりました。こちらの男性の方、よろしくお願いいたします。

◆市民 はい、南町内会の[ ]です。市長には、苫小牧の行政をはじめ、いつも全身で取り組んでいただいていることに感謝を申し上げる次第です。まあ、この地域を含めて、苫小牧市全体にたくさんの方がいるのかなと思って。個人的な質問にもなるかもしれませんが、今一番話題になっているのがIRなのかもしれません。でも、これもやはりこのエリアに市長さんの政策では決めているはずで、そのほかここに関わるさっきのカヌーの問題。これは沖縄の再編交付金で建てた後の米軍再編で、地域がカヌーポートを要望したわけではありません。そのとき作った条件があるわけなのです。その親水公園までという条件で、この地域は認めたはずなのです。それは、法律がどうこうではないんですね。こっちに作るという段階にそれを認めて、それではいいだろうということで、地域からの要望ではないのに、まあ、沖縄の再編交付金の予算で作るのだということで、地域も認めたわけです。まず、これが一つです。

私、一回しかチャンスがないと思いますから。まとめて言います。このラムサール条約です。工業都市苫小牧の中で、この自然保護区を設けるということは、土地の地主の人たちからも大反対があったのも記憶に残っています。しかし、バードサンクチュアリと日本の野鳥の会では、初めての施設もここにはあります。その後、環境省の環境監視センター等々あります。で、やはりそういう保護区にしてしまうと開発の網がかなりかかりますので、地主の方等々は反対の意向もかなりありました。だけど当時、そのとき僕のおやじが、今の[ ]ですけれども、そのときもそうだったと思います。で、やはり、工業都市の中でこういう場所がいいだろうということで認めたのも事実です。で、この30枠。一遍に言いますから、これもやはりここが許可して騒音公害があるのは分かりますけれども、やはり、空港に近接してる町内として認めたのもこの町内だったと思います。

で、今度のIRなんですけれども、知事が変わったと、途端に、これからということで、スタートラインにも着けないような状態になってるのかなと僕個人は思うわけです。これは、植苗の住所に今、構想が練られているようですけれども。去年、ここでIRを説明したときに、僕が質問したときも、どういう政策でやるのですかと言ったとき、ただIRを知ってもらうためにやったということで、苫小牧に誘致するかどうか分からないような回答をしておりました。ところが、今、国はもうパブリックコメントを4日までの期限です。で、北海道が5地区を、苫小牧は来月の二十何日でしたか、定員を切って、ただ説明だけするという事です。まあ、苫小牧にもう、北海道に来ないかと僕個人は思っている次第です。この空港を含めて、この一帯の苫小牧の観光産業とかそういうものをどういうふうに捉えているかということ、前の1年前にも質問したつもりだったのです。だけれども、それが全然、スピード感なく、今の段階では北海道にはもう、IRの誘致は難しいなというふうに個人的には思っています。スタートラインどころか、その準備すらできていないのが現状なのかなと思っています。ただ、このエリアは、やはり、いろいろな自然保護区で、リゾート開発のときゴルフ場、七つぐらいあります。そのときにも汚染問題だ、何だとありましたけれども、それも認めて開発してきたエリアです。それだけに、我々もそういう仕事にも携わってますけれども、やはり自然を守るのは人間ですから、人間との共生をなくして自然保護などあり得ないとも、僕個人は思っています。ですけれども、今の総合型リ

ゾートでは、もう外堀を埋められて、反対派だけが優位に立ってるように、報道で見る限りですよ、思っております。これで、本当に苫小牧市民がこの総合型リゾートを理解しているのかなと思っております。例えば決定されたとしたら、この植苗地区です。で、植苗地区でそういうものをまだまだ知り得る人はたくさんいるのかもしれないけれども、まだ、理解するまでには、市民に理解するだけの説明も何もいただいているというのが現状ではないかなと思います。ただ、市長にはもっとスピード感を持って、頑張ってもらいたいというのが実感なんです。やるからには最後までやってほしいのですよ。中途半端で投げ出すなんてことはね、僕は岩倉市長にもっと行動力があると思っておりますので、是非、頑張ってもらいたいという一人であります。

この地域はいろいろなことありましたけれども、それをみんな受け入れてきました。それで、地域の住民もいろいろ苦労しています。いろいろなことを、今、保育所問題、たくさん問題あります。その、カヌーポートを作ったためにこういう問題も生じているのも事実です。だけど、自然を愛さないなどという、うちの町民は一人もないはずですよ。今の道営住宅のこともたくさん問題があるのですけれども、是非、前向きにスピード感を持ってやってもらいたいと思うのです。我々もう高齢化になってきて、健康大作戦と聞いていますけど、市長をはじめ、やっぱり僕らもだんだん体にもがたがきますから、早くできて、IRのところの国際リゾートホテルにでも泊まってみたいという夢であります。外国行ってくるわけじゃありませんから。できる人はできるのでしょうけれども。是非、市長にはもう少しスピード感を持って、頑張ってもらいたいということです。回答は要りません。よろしくどうぞ。

◎市長 本当に御心配をかけながら経過していますが、我々、2012年ぐらいからずっと取り組んできております。まあ、ただ、途中で法律ができてですね、この前もある女性から苫小牧の市内で「市長」と。「横浜市がああやって手を挙げているのに、何で苫小牧市、手を挙げないの。」と怒られたのですが、今のIRの法律ができて、国に対して申請できるのは、都道府県と政令指定都市だけという法律の縛りができました。まあ、ゆえにですね、我々としては、北海道に対して、知事に態度表明してほしいという話と、今、北海道では3地区が手を挙げています。苫小牧、釧路、留寿都。それで、できれば表明と同時に候補地を決めてほしい。これを同じ時期にほしいという思いをですね、道庁のほうには伝えてきているのですが、まあ、高橋知事から鈴木知事になって、まだ半年なものですから、まあ、道庁あるいは知事を取り巻くさまざまな状況も一定の理解は示さなければならないというふうに思っていますし、多くの方が懸念されている自然破壊、そして、ギャンブル依存症等々の問題がありますけれども、我々はこれを粘り強く、市民の皆さんに。仮に決まった後もですね、IR、苫小牧におけるIRはこういう事業なですよということは、市民理解を求めるために活動していきたいというふうに考えております。まあ、なかなか外から見えませんが、随分ですね、ここ半月ぐらいから動きが出てきています。もう少し、是非、経過を見守っていただきたいと思っております。

もう一つは、苫小牧は昭和48年から人間環境都市を目指すべき都市像というふう決めて、我々の時代の総合計画にもはっきりと明記しております。公害問題で悩める町であった苫小牧の過去があります。今、そういう意味で、市民の皆さんといかに自然と共生していくのか。苫小牧で、

全国で初めて全国植樹祭が工業基地の中でやった苫小牧であります。育樹祭もこれから、苫小牧の植樹祭をやった場所でやりますし、ラムサール条約登録湿地をこの植苗で、皆さんでそれを支えていただいている町であります。自然といかに向き合っていくのかということのを第一義に考えていかなければなりません。しかし、苫小牧では、かつて苫小牧の港もそうだし、苫東基地もそうだし、最近では中央インターもそうなのですが、あれも最初、自然環境の問題で反対を受けて東西になってしまったという経過を僕らの世代は知っています。まあ、しかし、今になって、やはり市民の皆さんからもできればもっと利便性の高いインターチェンジを作ってくれということで、今、建設中であります。熊の問題も出ています。やはり、環境としっかり、どのように向き合いながら、次の世代にこの地域を渡していくのか、そういう観点から、これからも取り組んでいきます。

最後になりますけれども、是非、御理解をいただきたいのは、苫小牧市のほうで、この地域、国際リゾート構想という考え方をもう既に出しています。これはIRだけではありませんが、そうしたこれは北海道全体につながる問題でもあります。まあ、それゆえに、やはりこの植苗地区、植苗美沢地区の生活環境、あるいは子育て環境というものを、もっともっとやっぱり前向きに考えて、取り組んでいく必要がある。なぜならば、我々、市の政策として国際リゾート構想というのを打ち上げているわけですから。まあ、そういう考え方の下に、これからしっかりと、この地域の生活環境、あるいは子育て環境等について、取り組んでいかなければいけないなというふうに思っています。カヌーポートの問題も、数年前から問題になっています。そこは、やっぱり一定の条件、あるいは地元の皆さんが心配、もう、やっちゃいけないと言っているわけじゃなくて、ここまでですということは事業者の皆さんに理解をいただきながら、自然を守っていきながら、特に美々川というのは歴史的に非常に価値のある河川であります。その河川を次の世代に汚すことなく、やっぱり渡していくという。私、市長になってから千歳空港の冬、雪をばっと払うのですが、あれがどんどん、どんどん美々川にも流れているのではないかと、という懸念の御指摘等もありました。美々川を歴史的な価値のある美々川をどのように今の状態のままで次の世代に残していくのかというのは、やはり人間環境都市を目指す苫小牧にとっても、十分考えていかなければならない問題だというふうに考えていますので。そこは、うちの担当のほうで逐次、地域の皆さんとの協議をしながら進めていかなければならないなというふうに考えておりますので、是非、御理解をいただきたいと思います。

という話をしたら、まだまだ1時間ぐらいかかっちゃうので、是非、御理解をいただきたいし、是非、何か疑問、あるいは指摘があったら、どんどん声を届けていただきたいなど。植苗地区の生活環境あるいは自然環境、あるいはさまざまな問題について、是非、声を届けていただければと思います。

○司会 はい。それでは、そのほかにございますか。よろしいでしょうか。はい、それではお願いいたします。

◆市民 座ったままで言わせていただきます。今から6年か7年前に、市長さんにここで、まちかどミーティングのときに、この町内から苫小牧市の住宅を作ってほしいという要望があったときに、

帰りしなに、          さん、道庁にも顔があるんだから、道営住宅を進めてちょうだいと、こう言われました。山本副知事さんを通じて、下が4戸、上が4戸の8戸建ての住宅を4棟建てていただく。全部で32戸入れる住宅を建てていただく約束をしている中で、今度の30枠を通してあげたときに、平家建ての宮入りとして、建てるんで、30戸にしてくれと言われて、第1期工事が終わって、ことしの春、3月28日に高橋知事が来ていただいて、入ることができました。そのときをお願いしたのは、4年間で30戸を作るので、来年も作るよということで、今、工事をしてもらっております。ですけれども、子育てをするには2LDKでなく、3LDKを増やさない、子供のいる方はなかなか入ってくれません。それと、今、入ってもらっている中で、網戸がないのです。網戸が付いていないからって、随分、財団にも申し上げたし、苫小牧市の地域協議会担当にも申し上げているけれども、いまだに網戸が入っていません。これは住む人の気持ちになって、心になって、何とかこの工事に網戸を付けることを条件にして、来年から作ってもらいたいし、今現在の住宅にも早く網戸を付けてあげてほしいなというふうな思いでいっぱいあります。

あとのことはあまり、あれになりますから。それと、ラムサール条約は、大下助役さんのときに、私、頼まれて、頼まれて、体張って通してあげたことも忘れておりませんから、先ほどの意見に添えておきます。よろしく。

○司会 はい。ありがとうございます。網戸の関係になりますけれども、よろしく願いいたします。

◎空港政策課長 空港政策課の伊藤と申します。御質問ありがとうございます。

道営住宅の網戸の件でございますけれども、以前より          から、市に対してもお話がありまして、また、実際にお住まいの方からも御相談を受けておりました。で、このことにつきましては道営住宅ですので、北海道のほうにもですね、私どものほうも伝えていたところでございます。で、市といたしましては、まあ、道営住宅ということで、実施の主体は北海道という形になりますので、私どもも道庁には伝えているのですけれども、網戸の設置に関しましては、北海道と連携を図りまして、要望の実現に向けてですね、我々も一生懸命努力をしたいと思っておりますので、引き続き継続してですね、北海道をお願いを私どももしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎市長 今のを補足します。3LDKの問題はですね、道に伝えてあります。で、ここはなかなかあれなのですが、網戸はやります。ちょっと担当、びっくりした顔していますけれども。網戸はですね、時期的なことはこれから相談させていただきますが、道庁と連携するか、道庁ができないと言うのだったら市でやります。それは、しっかりとですね、網戸のほうは付けさせていただきます。3LDKのことはですね、これ、道庁全体の道営住宅に関わる問題なので、そこまでフライングすることはできませんが、しっかりと地元の人そういう要望があるよということは今までも言っているのですが、改めて、ことしのまちかどミーティングでそのような話があったということは、改めて時間かけずに伝えていきたいと。そのことについて、道庁がどういう考え方、どういう方向を持っているのかということも、逐次ですね、お知らせしながら、推移を見守っていただきたいなというふうに思っておりますので、そこは、御理解いただきたいと思っております。網戸



は約束します。

◆市民 皆さん、長時間にわたって御協力いただいて、それぞれの意見も出していただいて、市長さんが快く受けていただいたことも、皆さんでもう一度、感謝の拍手をしてあげていただきたいです。よろしく願いいたします。

どうもありがとうございます。市長さんどうも、よろしく。

きょうは本当に、いろいろなことが重なっている中で、このように町内のそれぞれの立場の方が集まっていたいただいて、意見を存分に出していただきました。どうか、この植苗美沢地区が世界に羽ばたける飛行場のそばで、先ほど出ていましたIRも、これはカジノのことが気になって、随分、きょうは市議員さんも見えているようですから申し上げますけれども、苫小牧の市議員が、まだ一つの心になっていない。これは全く役に立たない市議員だなと思っています。やっぱり17万都市には17人いればいいのに、まだ21人、いや28人。11名多いと思います。多いから仕事をしないで反対をする。こんなことではいけません。植苗から誰も出てなくても、これだけの地盤を固めて、やっぱり苫小牧が必要とする30枠にはいち早く協力して、千歳にはここは3月18日から、もう調印式をしてあげて、千歳が8月20日だったと思います。そのぐらい、あれだけ飛行場で飯を食べている千歳が協力をしないものを、この植苗が協力して差し上げて、苫小牧の顔を立てて差し上げている。このことだけは皆さん、大いに胸を張って協力して差し上げてほしいと思います。

それと、もう一つ申し上げたいのは、明治天皇が18歳のときに北海道に御巡行なされて、たまたまお水を飲まれた御膳水は、北海道に2か所よりありません。その1か所は、植苗、美沢のあの地区であります。それが、私、今より18年前に、そこにずっと柵を作ったり、いろいろしましたが、その柵ももう20年も経ちまして傷んでいますから、何とかできることなら御膳水公園ができれば観光の役にも立たないかなと思っていますが、それもできれば考えてほしいと思います。

以上、申し上げますけれども、ただ、IRに対して、私、58歳のときに、日本製紙の原料集荷のために、オーストラリアの下にあるタスマニアという島に行っていました。そのタスマニアではカジノがありまして、もう、団体で入ったら必ずそのカジノをさせないと帰してくれない、そんな国の姿であります。そして、ものすごく楽しく遊ばせてくれました。そして、こんなに楽しく遊ばせてくれるカジノは、国の方々はどうなのですかと言ったら、国はものすごい縛りが厳しくて、そんなに簡単にはできませんよと。ですけれども、このことによって、タスマニアに行ってよかったと皆さんから言われる接待をなさいとされていると。本当に10代20代の茶髪の女性がすばらしい対応をしてくれました。そんなことを含めて、タスマニアでの勉強もされて、何としてでも、今、市議員さんも見えているけれども、市長さんの思いに協力をして差し上げて、道庁が月末に、12月の末頃というのであれば、少なくとも10月の末か11月に市議員は心をついにまとめてもらわなければ、私は何としてでも苫小牧の市議員を減らすことの運動を皆さんでしたいと思います。どうか協力をお願いします。

以上で終わります。どうも、御苦労さまでした。

○司会 ありがとうございます。続きまして、市長から御挨拶を申し上げます。

◎市長 いろいろな御意見、御質問等々いただきまして、ありがとうございます。最後に■■■■から御発言もございましたが、しかし、ずっとこの地域の歩みを肌で感じておられる■■■■でありますので、まあ、しっかりとその思いをですね、胸に刻んで、これからの苦小牧づくりに励まなければならないなと思いながら聞かせていただきました。

市のほうでもですね、これまでこの地域に対する戦後の歴史的な経過が植苗地区にはありました。それは、その時代、その時代、さまざまな判断があったのだらうと思います。しかし、今、先ほども言いましたが、市のほうで国際リゾート構想を立ち上げさせていただいております。そのことによって航空機騒音という視点だけではなくて、やはりこの地域の生活環境、あるいは子育て環境等々についてですね、しっかりと取り組んでいかなければならないなというふうに考えておりますので、これからも身近なことで何かありましたら、是非、町内会長さんのほう、あるいはさまざまな、直接でも結構ですので、声を届けていただきたいなと。できることはすぐやります。できないこともあります。しかし、できなければできないという理由をお伝えし、理解してもらうために、一生懸命、お一人お一人の問題について、耳を傾けさせていただきたいなというふうに考えておりますので、是非、これからもよろしく願いしたいなと思うと同時に、さまざまな課題がまだまだあります。連町の会長からいただいている宿題もまだまだあります。その宿題に対して答えをできるだけ早く出せるように、一生懸命努力しなければならないなというふうに思っています。

改めてお疲れのところまちかどミーティング、最後までお付合いをいただきましたこと、心から御礼を申し上げまして、御挨拶に代えさせていただきます。きょうはありがとうございました。

○司会 長時間にわたりましてお疲れさまでした。以上をもちまして、まちかどミーティングを終了いたします。本日はどうもありがとうございました。